

2023年10月17日

明治安田生命 子育てに関するアンケート調査を実施

**子育てへの参画意識の高い男性が牽引？育休取得率・日数ともに過去最高に！
金銭的な不安が子どもを欲しい気持ちにブレーキ？子どもをさらに望む人が大幅に減少**

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、0歳から6歳までの子どもがいる既婚男女に「子育てに関するアンケート調査」を実施しましたのでご報告します。

1. 男性の育休について

(1) 男性育休の進捗状況

**子育てへの参画意識の高い男性が牽引？
育休取得率・日数ともに過去最高に！**

- ・ 育休に係る法改正・制度改正などを通じて男性の育休取得が促進されるなか、育休を取得した男性は30.8%、取得日数は平均41日と、2018年の調査開始以来、過去最高に！政府が掲げる『男性育休取得率2025年50%』に向けて順調に進捗
- ・ 育休取得理由のトップは、「育児は妻だけでなく自分も参加しないといけないと思ったから」（25.0%）、次いで「子どもが小さいうちに育休を取得し育児に参加したかったから」（12.5%）と、取得者の約4割が子育てへの参画意識を高くもっており、取得日数の伸展に大きく影響
- ・ また、昨年10月から施行された法改正により、育休を「取得しやすくなった」人は約4割（39.3%）と、法改正が育休取得率上昇の追い風に
- ・ 一方で、取得できなかった理由のトップは「給与が減少するなど、金銭的な面で取得しにくかった」（27.8%）で、金銭的な不安がネックに

(2) 男性育休“取得後の職場の雰囲気”

**育休取得した男性、周囲の気遣いで
仕事と育児を両立しやすくなった人が多数！**

- ・ 育休を取得した男性に取得後の職場の雰囲気をきくと、半数以上（51.8%）が、職場で好意的な雰囲気を実感。具体的には、「周囲の配慮で早く帰れるようになった」（19.0%）など、周囲の気遣いにより、仕事と育児を両立しやすくなった人が多数
- ・ 対して、「重要な仕事は任せてもらえなくなった」（3.0%）など、非好意的な雰囲気を感じた人は1割未満（9.0%）で、育休を取得しにくい理由にあげられている「職場の理解が不足」「職場の雰囲気への不安」は“思い過ごし”かも？

当社の男性育休取得促進に向けた取組みを紹介…P. 11

【ご照会先】
広報部 広報グループ TEL 03-3283-8054

2. 子育て世帯のお金について

(1) 子育てにかかる費用

子育て費用は4年ぶりに月額4万円を突破！

物価高騰による費用増加が、幼保無償化の効果を打ち消し？

- ・物価高により子育て費用の負担が大きくなったと実感している人は、前年の約8割から約9割（92.3%、対前年+7.1pt）に増加
 - ・項目別にみると、「食費（ミルク代やベビーフード、お菓子等）」（69.4%）、「電気・ガス代」（46.8%）、「日用品（おむつ代等）」（43.4%）など、多くの項目で負担感がアップ
 - ・そうしたなか、子育てにかかる費用は、前年から834円アップの「40,133円」で4年ぶりに月額4万円台を突破！
 - ・2019年10月から幼児教育・保育無償化（幼保無償化）が導入され、幼稚園・保育園代の費用は軽減^(※)されたものの、物価高による生活費の増加が幼保無償化の効果を打ち消し？
 - ・幼保無償化導入前の子育て費用（2019年、40,687円）と同水準にまで増加
- (※) 幼稚園、保育所、認定こども園等を利用する3歳から5歳までの全ての子ども利用料が無償化（幼稚園については、月額上限2.57万円）

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が
子育てにかかる費用 物価高の影響について分析！…P. 14

(2) 子育て世帯の年収

女性の年収は理想と現実で大きく乖離

- ・子育て世帯の年収は799万円（男性649万円+女性150万円）で、前年の806万円から7万円ダウン
- ・男女別で見ると、男性は11万円アップ（前年638万円）するものの、女性は18万円ダウン（前年168万円）
- ・理想の世帯年収は1,150万円（男性844万円+女性306万円）で、理想と現実の差は351万円
- ・さらに、理想と現実の差を男女別で見ると、男性は現実から30%アップを望むのに対し、女性は104%アップと、理想と現実の年収に大きな乖離が
- ・物価高で子育て費用が増加傾向のなか、今後は男性の収入アップだけではなく、女性の収入アップについて、配偶者控除制度の見直しなど、理想と現実の年収の乖離が縮まるような検討が必要？

3. 子どもを望む気持ちについて

金銭的な不安が子どもを欲しいと思う気持ちにブレーキ？

子どもを「さらに欲しい」と望む人、前年から大幅に減少

- ・ 子どもを「さらに欲しい」と望む人は（21.5%）で、前年（29.5%）から▲8ptと大幅な減少
- ・ 子どもを「さらに欲しいと思わない」人は（41.2%）で2018年の調査開始以来過去最高に
- ・ 子どもを「さらに欲しいと思わない」理由の上位は「将来の収入面に不安がある」「生活費がかかる」などの金銭的な理由が大半
- ・ 足元の物価高による生活費の上昇や、将来の収入面への不安等により、子どもを「さらに欲しいと思わない」人が増えている？
- ・ 子どもを「さらに欲しい」という気持ちに変化するには、「自身の収入アップ」「将来の教育費の負担軽減」など、金銭不安の解消が必要との回答が多数
- ・ 一方、子どもを「さらに欲しい」と望む人は、その気持ちに影響があったこととして「出産一時金の増額」（37.3%）、や「幼保無償化」（36.0%）、「自身の収入アップ」（30.5%）などを理由にあげており、政府による少子化対策などを通じた金銭面での不安軽減が、子どもを「さらに欲しい」という気持ちに影響を与えたのか？

明治安田総合研究所 エコノミスト 木村 彩月が
子育て世帯のお金と少子化への影響について分析！…P. 19

4. 子育ての意識について

(1) “イクメン” という言葉への違和感

“イクメン” という言葉がなくなる日も近い？

男性の育児は当たり前でイクメンという言葉に違和感

- ・ 2000年代に、子育てに熱心な男性を表す言葉として“イクメン”という言葉が普及してきたが、男性の育児参画が進む現代において、育児は女性だけではないという風潮となり、“イクメン”の言葉は時代遅れに？
- ・ 自身のことをイクメンと名乗らない男性に、その理由を聞くと、「男性の育児は当たり前でイクメンという言葉に違和感がある」（40.6%）と回答した人が約4割も！
- ・ “イクメン”という言葉は、男性の育児参画への意識に大きく貢献してきたが、これからは、よりいっそう男性の育児参画が当たり前となり、“イクメン”という言葉がなくなる将来は近い？

(2) 男性の子育てへの意識と子育て分担割合

男性の6割が子育ては「男女平等ですべき」と回答するものの、 自発的に取組む意識は半数に満たず

- ・イクメンという言葉が時代遅れになるなか、男性に子育てへの意識についてきくと、6割以上（60.9%）が「男女平等ですべき」と回答
- ・しかし、子育てに自発的に取組むべきと意識している男性は半数に満たず（45.6%）女性の自発的な意識（74.2%）と、大きなギャップが
- ・過去6年間の、家庭における男性の子育て分担割合では、共働き世帯、専業主婦世帯とも、2割台のまま横ばいの状況
- ・男性の育休取得も順調に進捗し、子育てへの参画意識は高くなっているものの、実際の子育ての役割分担では、女性に大きな偏りが
- ・男性は、育児を「自分事化」する意識へとフェーズチェンジしなければ、子育ての分担は女性に偏ったままで、“男女平等”の子育ては、いつまでも実現できないかもしれない

5. ランキング

(1) 子育てに熱心だと思う男性有名人

子育てに熱心だと思う有名人 1位は「つるの剛士」さん 2位「杉浦太陽」さん、3位「はなわ」さんがランクイン

(2023年 子育てに熱心だと思う男性有名人 トップ10) ※敬称略

1位	つるの剛士	2位	杉浦太陽	3位	はなわ	4位	大久保嘉人	5位	谷原章介
6位	長友佑都	7位	エハラマサヒロ	8位	アレックス・ラミレス	9位	賀来賢人	9位	小林よしひさ

(2) 子どもに習わせたいこと

「水泳」「英語」「ピアノ」「サッカー」「プログラミング」が不動の人気 「バスケットボール」がランク外から10位にランクイン!

(2023年 子どもに習わせたいこと トップ10)

1位	水泳	2位	英語	3位	ピアノ	4位	サッカー	5位	プログラミング
6位	体操・新体操	7位	そろばん	8位	ダンス	9位	野球	10位	バスケットボール

<対象者の属性>

1. 調査対象

0歳から6歳までの子どもがいる既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2023年9月5日（火）～9月8日（金）

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,100人

6. 回答者の内訳

(単位：人)

	夫婦共働き	妻（自身） が専業主婦	計
0歳から6歳までの子どもがいる既婚男性	330	220	550
0歳から6歳までの子どもがいる既婚女性	330	220	550
計	660	440	1,100

【目 次】

1. 男性の育休について

- (1) 男性育休の進捗状況 . . . 7～9 ページ
- (2) 男性育休 “取得後の職場の雰囲気” . . . 10～11 ページ

2. 子育て世帯のお金について

- (1) 子育てにかかる費用 . . . 12～14 ページ
- (2) 子育て世帯の年収 . . . 15 ページ

3. 子どもを望む気持ちについて . . . 16～19 ページ

4. 子育ての意識について

- (1) “イクメン” という言葉への違和感 . . . 20 ページ
- (2) 男性の子育てへの意識と子育て分担割合 . . . 21～22 ページ

5. ランキング

- (1) 子育てに熱心だと思う男性有名人 . . . 23 ページ
- (2) 子どもに習わせたいこと . . . 24 ページ

1. 男性の育休について

(1) 男性育休の進捗状況

子育てへの参画意識の高い男性が牽引？育休取得率・日数ともに過去最高に！

○育休に係る法改正・制度改正などを通じて、男性の育休取得が促進されるなか、育休を取得した男性は昨年の23.1%から7.7ptアップの30.8%と、2018年の調査開始以来、初めて3割を超える結果となりました。また取得率の上昇に加え取得日数も、昨年の平均30日から41日と大幅に伸展し、過去最高となりました。政府が掲げる『男性育休取得率2025年50%』に向けて順調に進捗しているようです

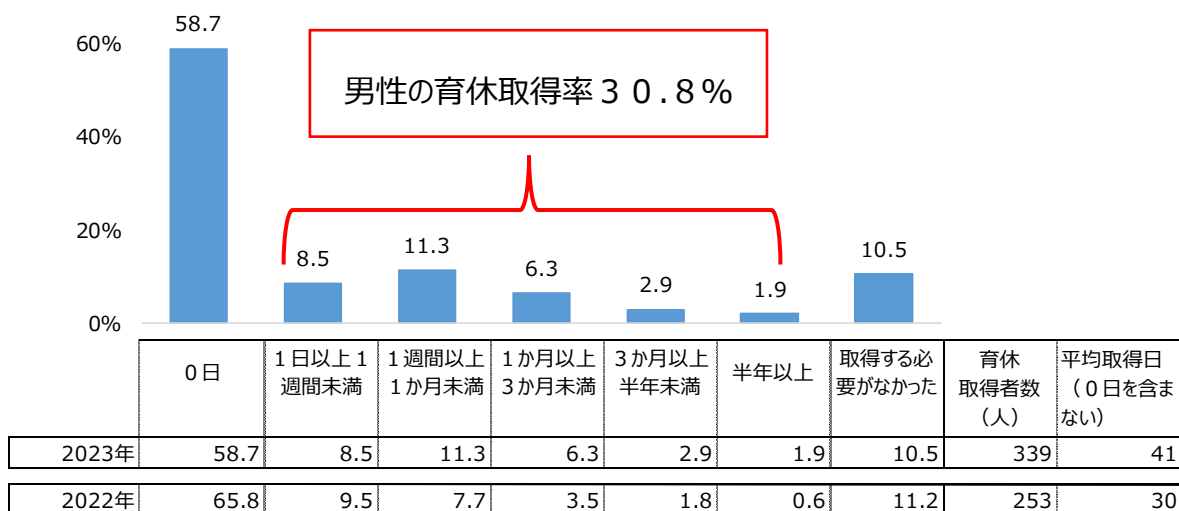
○育休を取得した理由を聞くと、トップは「育児は妻だけでなく、自分も参加しないといけないと思ったから」(25.0%)が最も多く、次いで「子どもが小さいうちに育休を取得し、育児に参加したかったから」(12.5%)となり、男性の育児への参画意識が高まっていることが伺えます。これらの回答をした人達の育休取得日数は平均61日と、全体の平均日数を大きく上回っています

○また、昨年10月の法改正により、「出生時育児休業（産後パパ育休）」が創設されたことや、「育児休業の分割取得」が可能となりました。これを受け、育休を取得しやすくなったかを聞くと、「取得しやすくなった」と回答した人は約4割(39.3%)で、取得率伸展の追い風になったことが伺えます

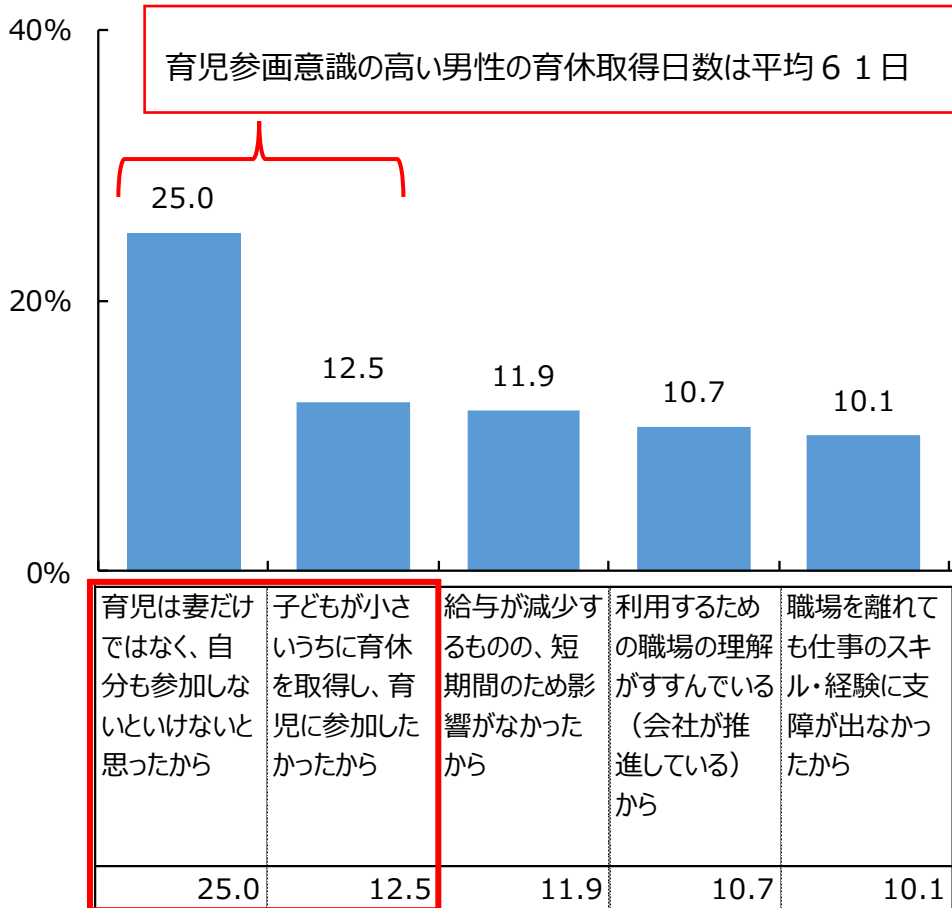
○一方で、育休を取得できなかった人もいまだ半数以上(58.7%)存在しており、取得できなかった理由のトップは「給与が減少するなど、金銭的な面で取得しにくかった」(27.8%)と、“金銭的な不安”が、最も多い結果となりました

○次いで「利用するための職場の理解が不足している」(13.1%)、また「長期職場を離れ、仕事のスキル・経験に支障がでるため」(9.7%)と、職場の理解や自身の仕事への影響に関する不安感も、育休取得のネックになっているようです

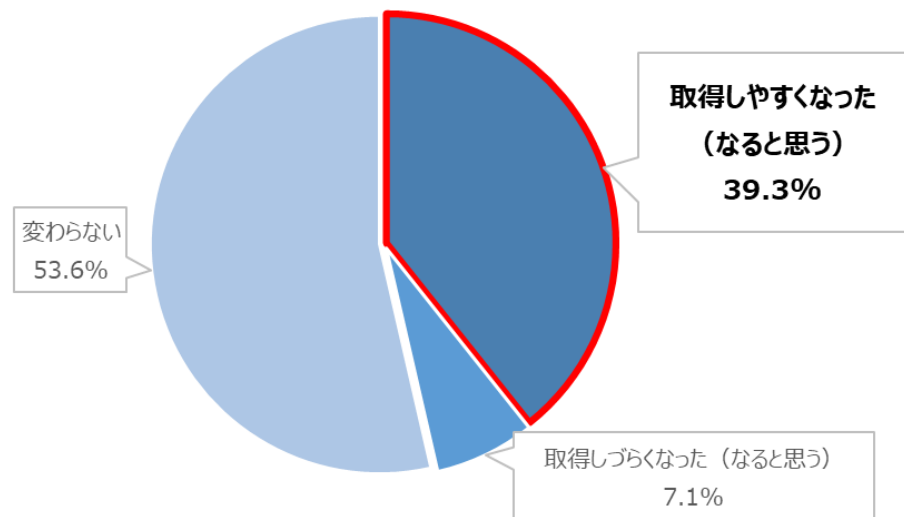
■男性の育休取得率・取得日数（取得期間別）



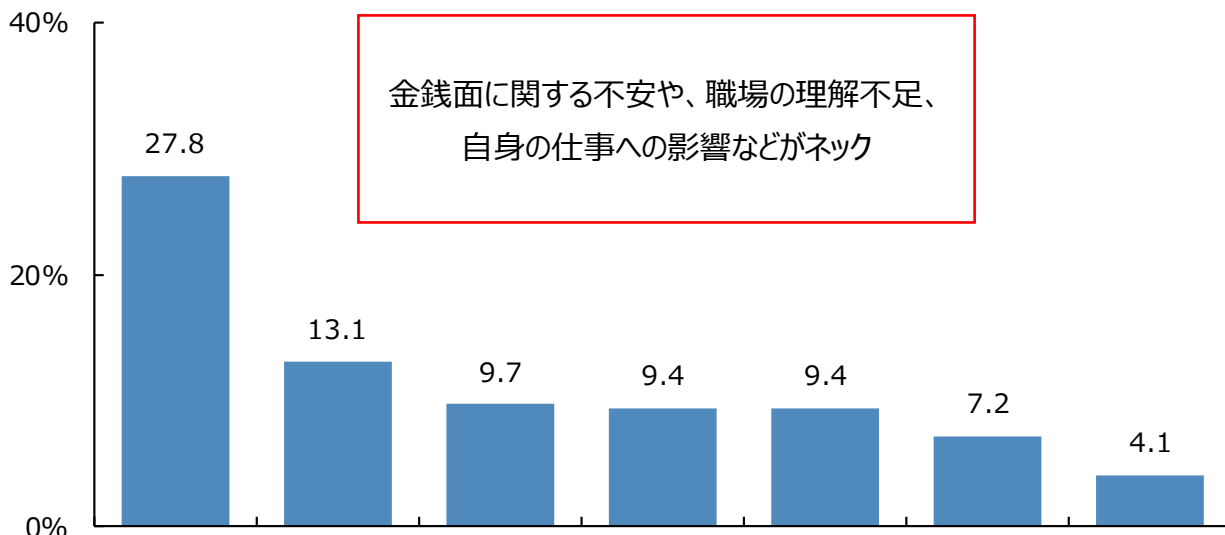
■育休を取得した理由（育休取得の男性が回答した上位5つの理由）



■制度改正により育休が取得しやすくなったか



■育休を取得できなかった男性の理由（育休未取得の男性が回答）



金銭面に関する不安や、職場の理解不足、自身の仕事への影響などがネック

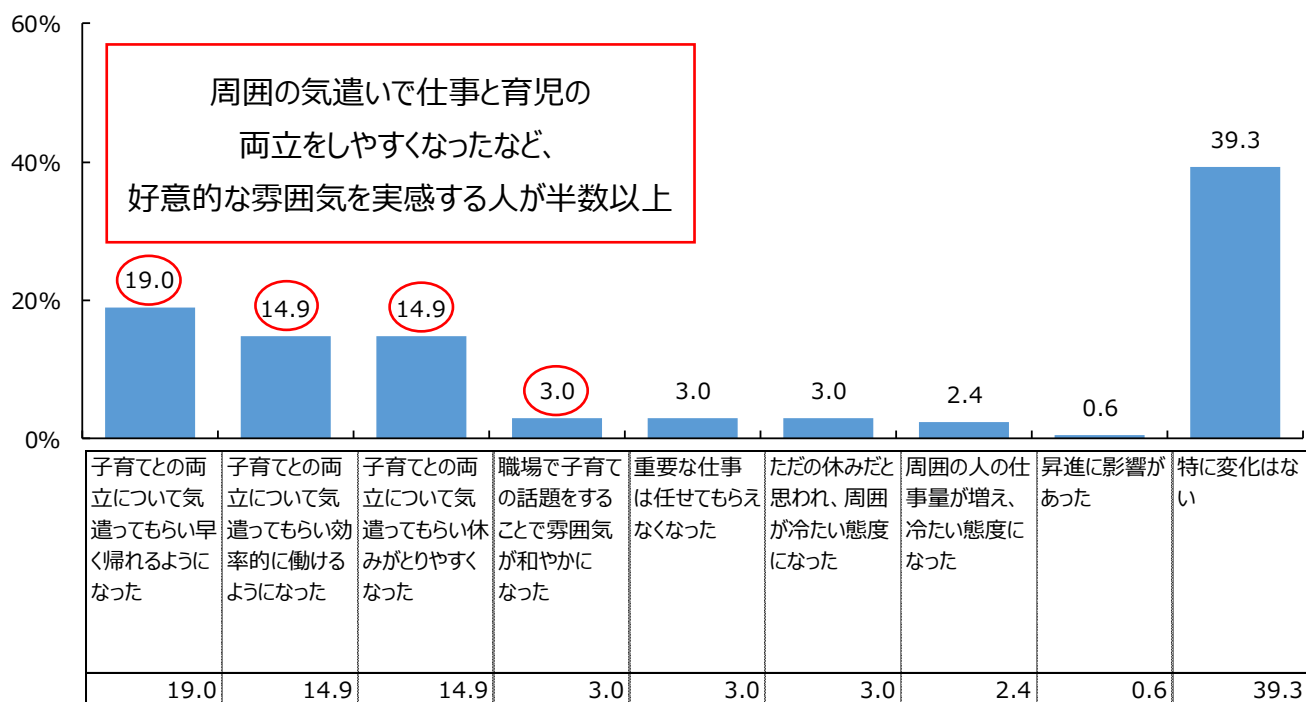
	給与が減少するなど、金銭的な面で取得しにくかった	利用するための職場の理解が不足している	長期職場を離れ、仕事のスキル・経験に支障がでるため	理想の育休を取得できる国や企業の制度があることを知らなかった	配偶者が育児をするため、育児の人手が足りている	長期職場を離れ、職場に戻る際の周囲の雰囲気不安がある	昇進などに弊害があるため
2023年	27.8	13.1	9.7	9.4	9.4	7.2	4.1
2022年	21.0	19.3	13.1	0.4	1.0	14.4	0.3

(2) 男性育休 “取得後の職場の雰囲気”

育休取得した男性、周囲の気遣いで仕事と育児を両立しやすくなった人が多数！

- 男性の育休未取得の理由に、“職場の雰囲気への不安”があげられるなか、育休から復帰した男性に復帰後の職場の雰囲気の変化についてきくと、半数以上（51.8%）の人が、周囲の気遣いにより仕事と育児を両立しやすくなったなど、職場での好意的な雰囲気を実感しています
- 具体的には、周囲の配慮で「早く帰れるようになった」（19.0%）や、「効率的に働けるようになった」（14.9%）など、職場の気遣いにより、育児との両立が図りやすくなったと、多くの人が回答しています
- 対して、「重要な仕事は任せてもらえなくなった」（3.0%）や「ただの休みだと思われ、周囲が冷たい態度になった」（2.4%）など、非好意的な変化を感じた人の合計は1割未満（9.0%）で、育休未取得者が抱えている“職場の雰囲気への不安”は“思い過ごし”かもしれません

■育休取得後の職場の雰囲気（育休取得の男性が回答）



～当社の男性育休取得促進に向けた取組みを紹介～

■明治安田生命 人事部 ダイバーシティ推進室 室長 桑山 裕衣



当社では、一人ひとりが「仕事」と「生活」のハーモニーによる好循環を重視する働き方によって、生産性の向上をめざす「ワーク・ライフ・マネジメント」の推進に取り組んでいます。

そのなかで、近年は男性育休が取得しやすい環境づくりに力を入れています。従来から対象者への取得勧奨や、社内イントラサイトでの育休取得者の事例紹介、オンラインセミナー等の開催に加え、取得状況を組織の評価に反映する運営に取り組んできました。その結果、男性育休取得率は2020年度から3年連続で100%を達成しています。

さらに、より早期かつ長期に取得できるよう、配偶者の出産予定日の事前申告と「育休取得計画書」の作成により、上司と育休取得について早くから相談できる仕組みを整備しました。また、年に一度、社長出席のもと各所属の推進リーダーと所属長が参加し、ダイバーシティの取組みについて話し合う「ダイバーシティ・フォーラム」において、男性育休取得をテーマに掲げ、取得した職員によるパネルディスカッションや従業員同士のブレストを実施しました。当社はこのような取組みにより、男性育休を取得しやすい職場風土の醸成に努めています。

～当社の男性職員が育休取得の際に工夫したこと・育休取得後の感想～

(社内サイト掲載の男性職員の声)

- 育休を取得して、か弱い命を守るプレッシャーは母親1人には大きすぎるということに気づきました。今は、子どもの「お風呂」と「お風呂上がりの保湿、着替え」を妻と分担しています。また、長男がまだ1人で寝室に行けないので、「長男の寝かしつけ担当」と「次男の面倒を見る担当」を夫婦で分担しています。そのため、基本的に遅くとも19：30に退勤しており、育休明けも職場の理解が得られています。(30代 子ども2人)
- 育休期間を振り返ると、洗濯の回数がこれまでの10倍くらいになり、驚いたことを覚えています。他にも思っていた以上に新生児の世話は手間と時間がかかることを痛感し、その後も積極的に子育てに参画しようという気持ちになりました。平日は帰りが遅くなるが多いため、朝一で子どもの沐浴を行ってから出勤するようにしています。休日は沐浴・買い出し・食事の準備等を私が担当しています。(30代 子ども1人)

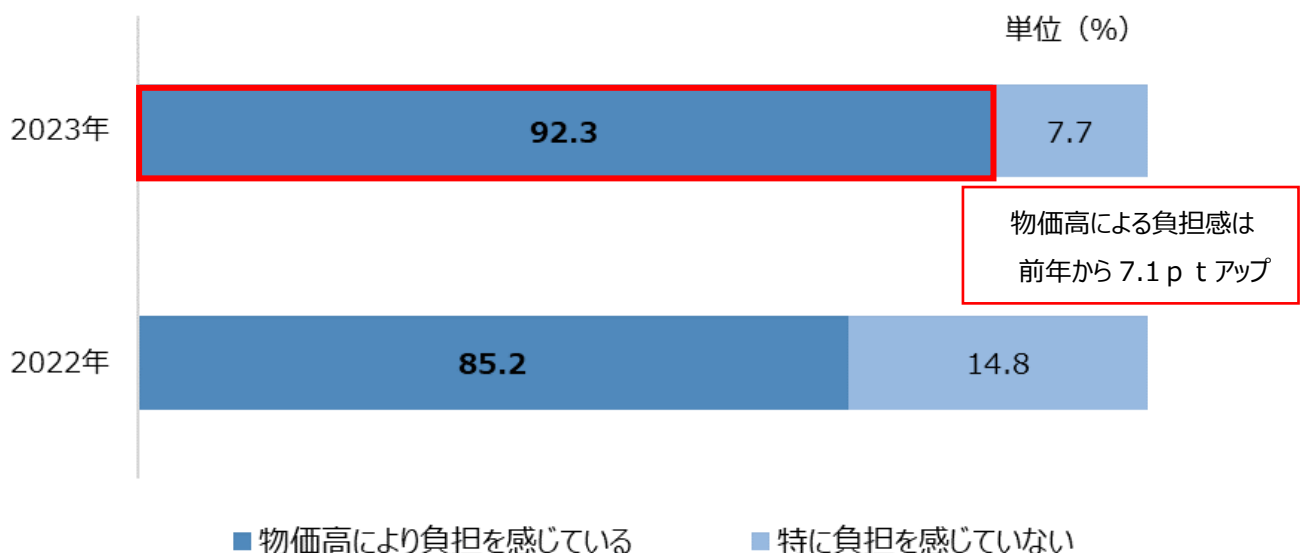
2. 子育て世帯のお金について

(1) 子育てにかかる費用

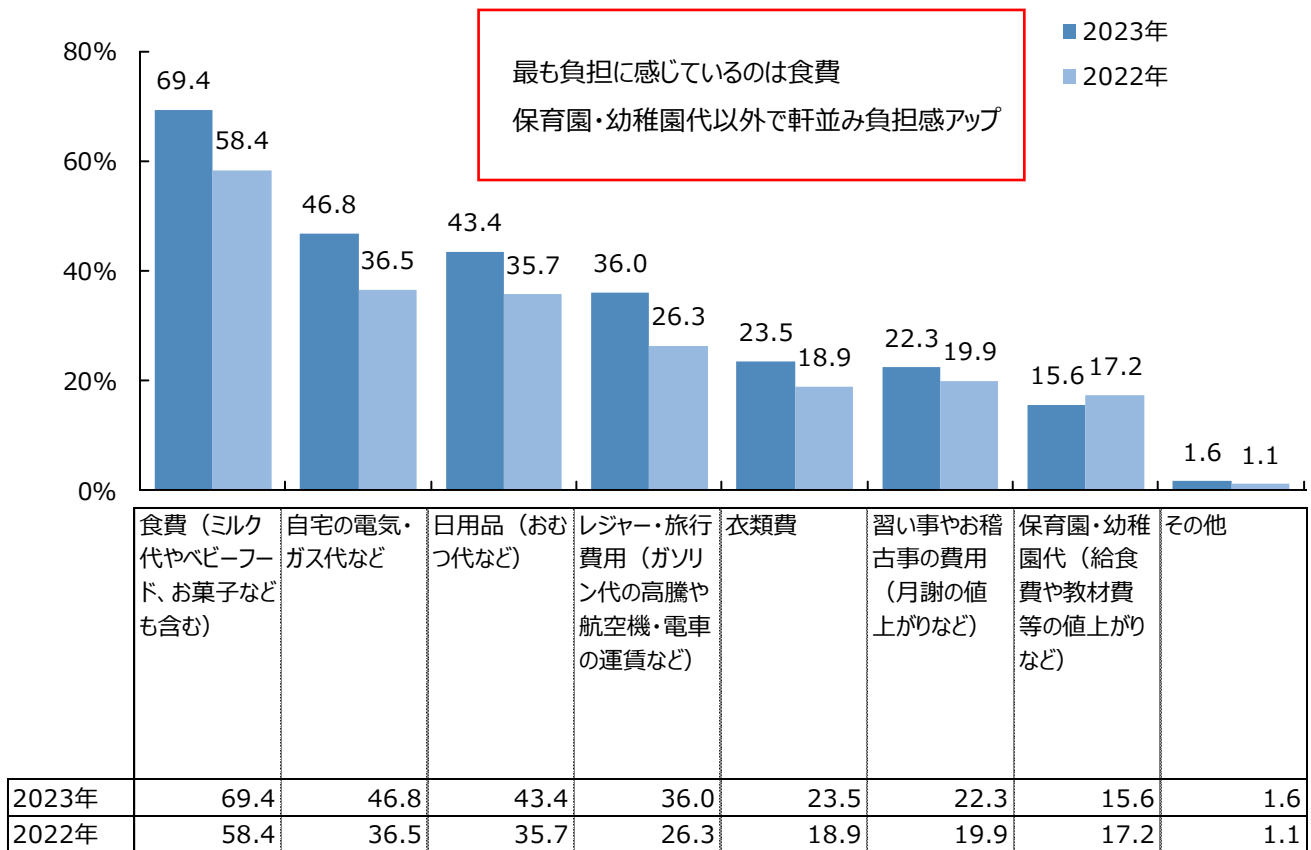
**子育て費用は4年ぶりに月額4万円を突破！
物価高騰による費用増加が、幼保無償化の効果を打ち消し？**

- 物価高により子育て費用の負担が大きくなったと実感している人は、前年の約8割（85.2%）から約9割（92.3%、対前年+7.1p t）に増加し、物価高が子育て世帯の家計へ影響を与えています
 - 負担感を項目別でみると、「食費（ミルク代やベビーフード、お菓子なども含む）」（69.4%）、「自宅の電気・ガス代」（46.8%）、「日用品（おむつ代など）」（43.4%）など、多くの項目で負担感がアップしています
 - そうしたなか、子育てにかかる費用は、前年から834円アップの「40,133円」で4年ぶりに4万円台を突破し、2019年10月から幼児教育・保育無償化（幼保無償化）が導入前の水準まで増加しました
 - このことから、幼保無償化で軽減^(※)された子育て費用は、物価高による生活費の増加で、その費用軽減効果を打ち消しているといえそうです
- (※) 幼稚園、保育所、認定こども園等を利用する3歳から5歳までの全ての子ども
の利用料が無償化（幼稚園については、月額上限2.57万円）

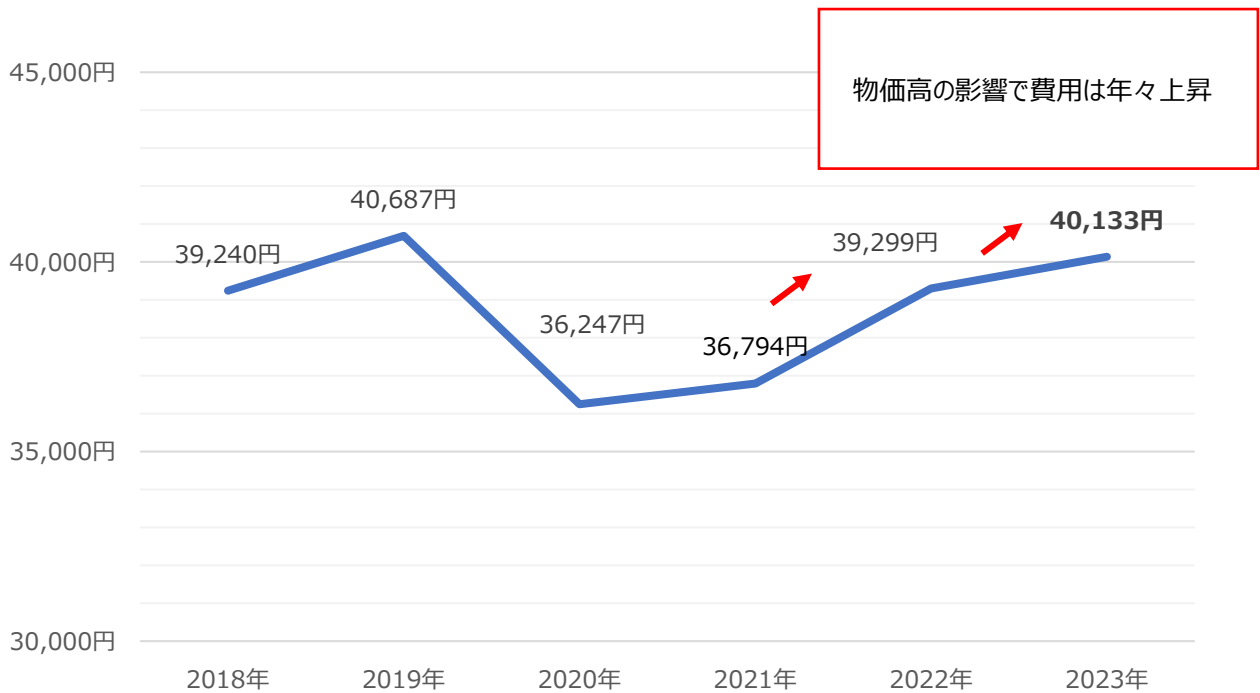
■物価高により子育て費用に負担を感じているか



■物価高により負担を感じている子育て費用（負担を感じている人が回答）



■子育てにかかる費用（月額）



～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



物価高が子育て世帯に重くのしかかっています。負担に感じている費用を項目別に多い順に並べると、前ページのとおり「食費」、「自宅の電気・ガス代など」、「日用品」と続きます。生活必需品が上位を占めており、こうした傾向は公式統計からも確認できます。

総務省が発表している消費者物価指数を見ると、8月は前年比+3.2%の上昇となっています。大半の人はこれでも高すぎるくらいに感じるでしょうが、食料品に限れば、上昇率は同+8.6%に達しています。また、同統計で「品目の年間購入頻度階級別指数」を見ると、「まれに購入」が同+2.7%の上昇にとどまっているのに対し、「頻繁に購入」は同+8.0%と、身の回り品ほど価格上昇が著しい様子を示しています。子育て世帯の「体感物価」は、平均的な物価上昇率よりもはるかに高いと言えるでしょう。

一方、厚生労働省が8月4日に発表した、2023年春闘における主要企業の賃上げ率は3.60%と、1993年の3.89%以来30年ぶりの高水準になったことが明らかになっています。しかし、今のところ物価上昇でほとんど相殺されてしまっているのが現実です。

ただ、電気代に関しては、政府の物価高対策や、燃料となるLNG（液化天然ガス）価格の落ち着きもあって、8月は前年比で▲20.9%と約2割の下落となっています。都市ガス代も同▲13.9%のマイナスです。また、食料品の値上げラッシュもどうやらピークアウトしつつあります。帝国データバンクの「食品主要195社価格改定動向調査」によると、10月の値上げ品目は4,634品目で、前年同月の約6割にとどまりました。逆に値下げ品目も約800品目に達するなど、潮目は変わりつつあります。子育て世帯にとって、もう少しの辛抱と言えるかもしれません。しかし、今後もこうした流れが続くかどうかは、原燃料費に大きな影響を与える原油価格や円安の動向次第であり、油断はできません。

(2) 子育て世帯の年収

女性の年収は理想と現実で大きく乖離

○子育て世帯の世帯年収は799万円（男性649万円＋女性150万円）で、前年の806万円から7万円ダウン。男女別で見ると、男性は11万円アップ（前年638万円）するものの、女性は18万円ダウン（前年168万円）しています

○次に理想の年収について聞くと、世帯年収1,150万円（男性844万円＋女性306万円）で、理想と現実には351万円の差がありました

○さらに、理想と現実の年収差を男女別で見ると、男性は195万円の差があり、現実から30%アップを望むのに対し、女性は156万円の差で現実から104%アップと、女性の理想と現実の年収の乖離は、男性よりも大きくなっています

○物価高により、子育て費用が増加傾向のなか、今後は男性の収入アップだけではなく、女性の収入アップについて、配偶者控除の見直しなど、理想と現実の収入の乖離が縮まるような検討が必要なのではないでしょうか

■子育て世帯の年収推移（※世帯合計は男性と女性の平均個人年収を合わせた金額）

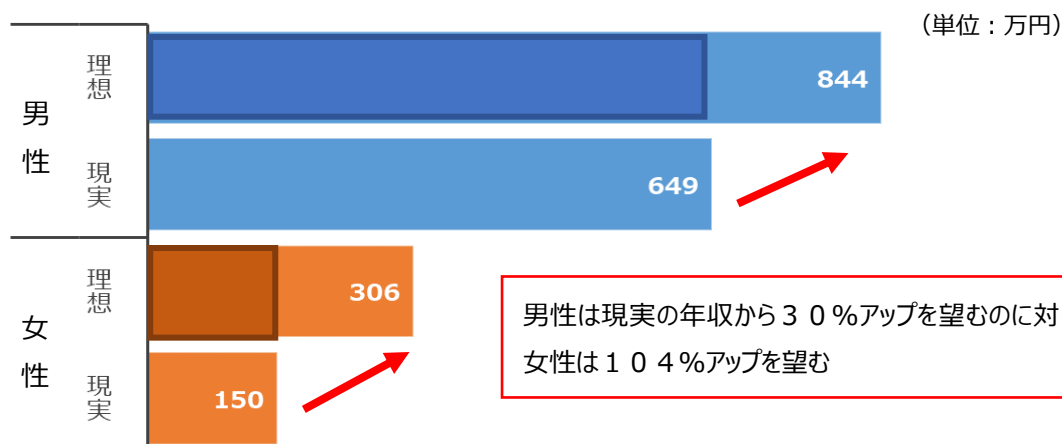
（現実の年収）

	世帯合計		
	男性	女性	
2023年	649万円	150万円	799万円
2022年	638万円	168万円	806万円
2021年	619万円	163万円	782万円
2020年	634万円	153万円	787万円
2019年	626万円	129万円	755万円
2018年	606万円	149万円	755万円

（理想の年収）

	世帯合計		
	男性	女性	
2023年	844万円	306万円	1150万円
2022年	808万円	316万円	1124万円
2021年	780万円	286万円	1066万円
2020年	792万円	304万円	1096万円
2019年	773万円	259万円	1032万円
2018年	759万円	270万円	1029万円

■理想と現実の年収差 男女別（2023年の現実と理想の年収）

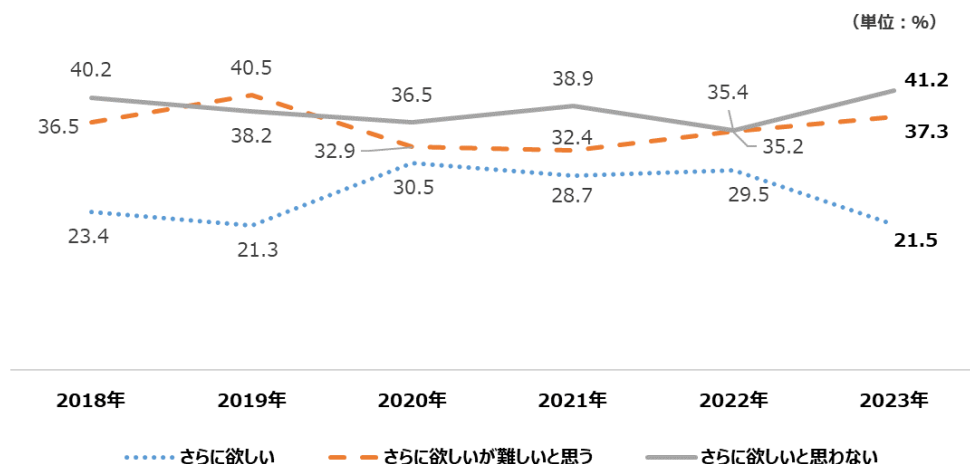


3. 子どもを望む気持ちについて

金銭的な不安が子どもを欲しいと思う気持ちにブレーキ？ 子どもを「さらに欲しい」と望む人、前年から大幅に減少

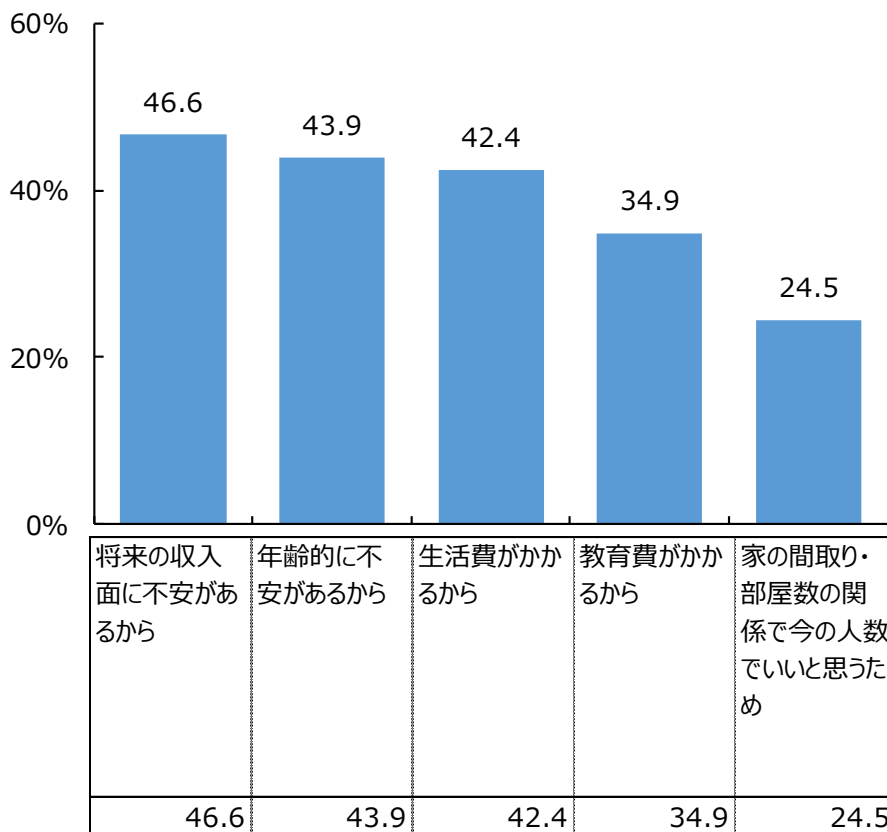
- 子育て費用の増加や、女性の収入ダウンなど、金銭的な不安要素が増えるなか、子育て世帯に、子どもを「さらに欲しい」と望む気持ちについて聞くと、子どもを「さらに欲しい」と望む人は、前年（29.5%）から8 p t ダウンし、21.5%まで減少しました。また、子どもを「さらに欲しいと思わない」と回答した人は41.2%で、2018年の調査開始以来、過去最高となりました。
- 子どもをさらに「欲しいと思わない」と回答した人に理由を聞くと、上位3つでは、「将来の収入面に不安がある」（46.6%）「年齢的に不安があるから」（43.9%）「生活費がかかるから」（42.4%）という結果になりました
- 賃上げムードで男性の収入はアップしているものの、足元の物価高による生活費の上昇や、将来の収入面での不安等により、子どもを「さらに欲しいと思わない」人が増えているようです
- また、子どもを「さらに欲しいと思わない」と回答した人に、どうすれば子どもを「さらに欲しい」と望む気持ちになるかを聞くと、「自身の収入アップ」が53.6%で最も多く、次いで「(将来の)教育費の負担が少なくなれば」（48.6%）の結果で、金銭的な不安の解消が最も重要だといえます
- 一方で、子どもを「さらに欲しい」（21.5%）と望む人に、その気持ちに影響を与えた要素を聞くと、トップは「出産一時金の増額」（37.3%）、次いで「幼保無償化」（36.0%）、「自身の収入アップ」（30.5%）など、金銭面で不安が軽減されるような政策が、子どもを「さらに欲しい」という気持ちに影響を与えたようです
- 異次元の少子化対策で、子育て世帯が子どもを「さらに欲しい」という気持ちになるためには、金銭的な不安の解消が重要で、子育て費用のフォローや持続的な賃上げがカギとなるのかもしれません

■子どもを望む気持ちの推移（全体）



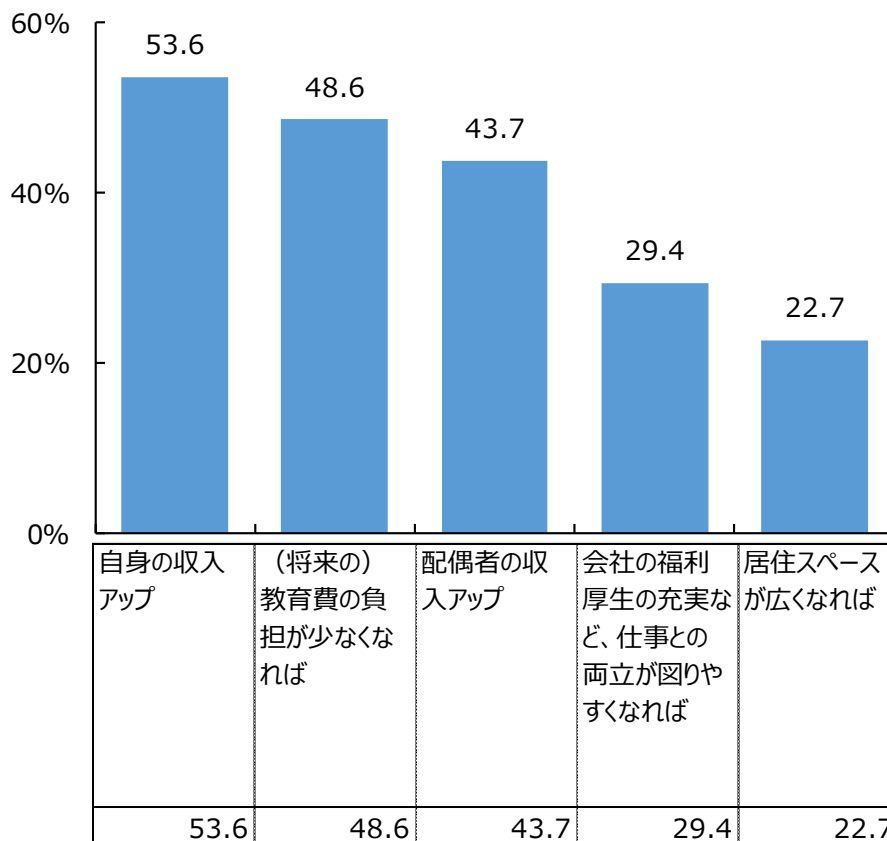
■子どもを「さらに欲しい」と思えない理由

(子どもを「さらに欲しい」と思わないと回答した人の上位5つの理由)

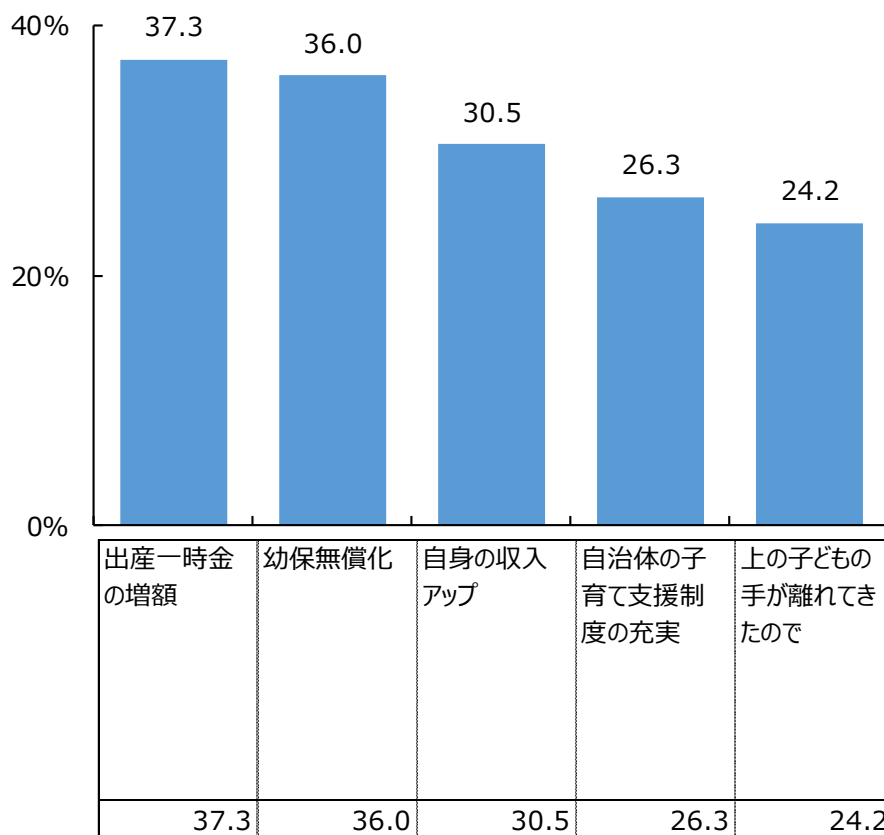


■どうすれば子どもをさらに欲しいと思えるか

(子どもを「さらに欲しいと思わない」と回答した人上位5つの理由)



■子どもを「さらに欲しい」という思いに影響があったこと
 (子どもを「さらに欲しい」と回答した人の上位5つの理由)



エコノミスト 木村 彩月はこう見る！

■明治安田総合研究所 経済調査部 エコノミスト 木村 彩月



子どもを「さらに欲しいと思わない」人のうち、「さらに欲しい」と思えるために必要なこととして、収入アップを望む回答が半数以上となりました。今回のアンケートでは、男性の年収が前年から小幅アップしたものの、女性の年収はダウンしています。足元の物価上昇率を加味すれば、男性も実質ベースでは下がっている計算で、子育て世帯の経済的な不安が強まっているのもうなずけます。また、男女の年収差は約4.3倍とまだまだ大きいのが現実です。政府は、いわゆる「年収の壁」を意識して就業調整をしながら働く女性が多いことに対し、壁解消に向けた政策を進めています。壁を意識せずに働ける環境が整備されれば、収入アップも期待でき、子育て世帯の経済的不安の解消にも寄与する可能性があります。

子どもを「さらに欲しい」人の気持ちに影響を与えた要素としては、「出産一時金の増額」がトップとなりました。出産一時金が増額（8万円増の50万円に）されたというニュースは、メディアでも大々的に取り上げられたため、子育て世帯の反響が大きかったのかもしれませんが、ただ、厚生労働省の最近の調査では、今年4月の出産一時金の増額後、出産費用を値上げした医療機関が有効回答の約3割に上ったことが明らかになっています。実質的な負担が軽減されていないのであれば、子どもを「さらに欲しい」と思う気持ちが萎んでしまう可能性があります。現在、政府は出産費用の保険適用化を検討しており、自己負担額についても別途保障する方針を示していますが、いずれにしても、負担の増分が給付を上回らないようにする工夫が求められます。

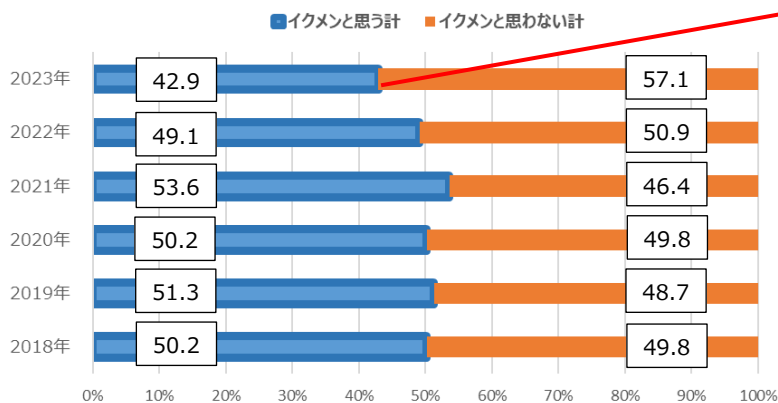
4. 子育ての意識について

(1) “イクメン” の言葉への違和感

“イクメン” という言葉がなくなる日も近い？
 男性の育児は当たり前でイクメンという言葉に違和感

- 子育て世帯の男性に自身が「イクメンかどうか」を聞いたところ、自身を「イクメンだと思ふ（イクメンだと思ふ＋どちらかというところイクメンだと思ふ）」と回答した男性は42.9%で、イクメンを自負する人の割合は2018年の調査開始以来、過去最少でした
- 一見すると、イクメンが減り男性の育児参画が進んでいない状況に思える結果ですが、イクメンを自負しない男性（57.1%）に、なぜ「イクメンと思わない」のか理由を聞くと、「男性の育児は当たり前でイクメンという言葉に違和感がある」（40.6%）がトップで、イクメンを名乗らずとも育児に参画している人が多く存在していることがわかりました
- 2000年代に、子育てに熱心な男性を表す言葉として“イクメン”が普及し、男性の子育て参画への意識に大きく貢献してきましたが、もはや、男性の育児は当たり前であると捉える人も多く、“イクメン”という言葉は時代遅れになりつつあり、これから一層男性の育児参画が進めば、“イクメン”という言葉がなくなる日も近いのかもしれない

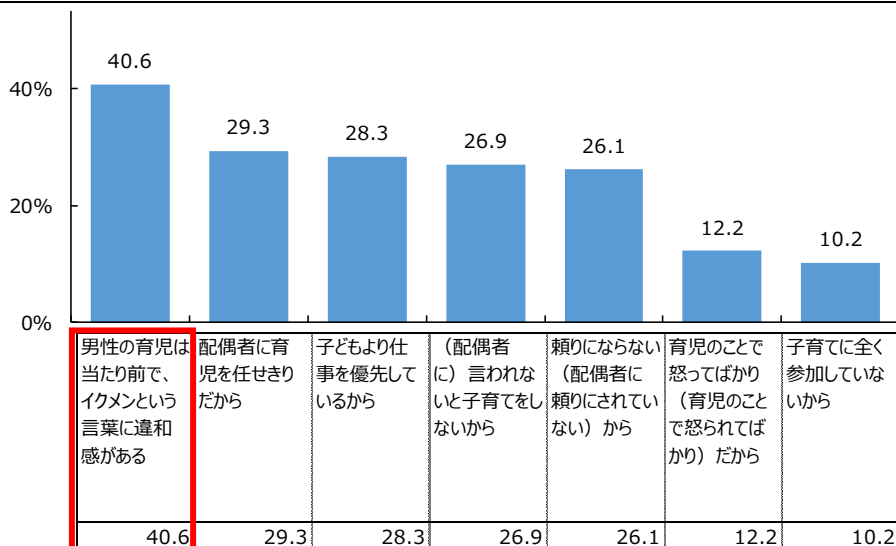
■自身のことをイクメンと思うかどうか（男性の回答）



男性が自身をイクメンと思う計は42.9%で過去最少

■自身のことをイクメンと思わない理由

（イクメンだと思わない＋どちらかというところイクメンだと思わないと回答した男性の回答）

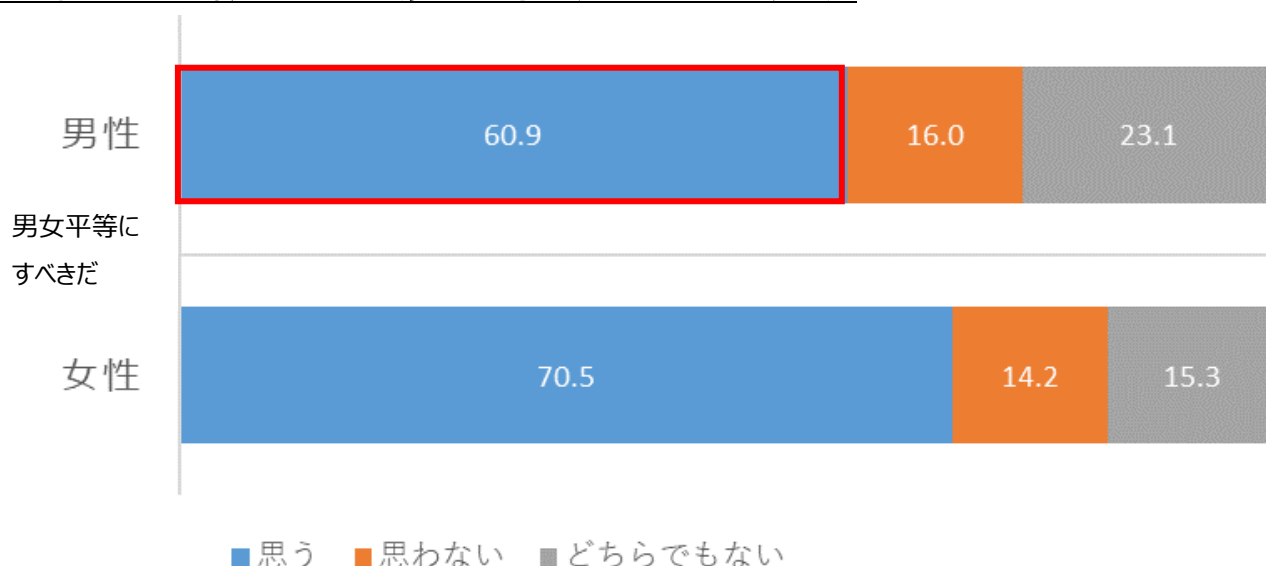


(2) 男性の子育てへの意識と子育て分担割合

男性の6割が子育ては「男女平等にすべき」と回答するものの、
自発的に取り組む意識は半数に満たず

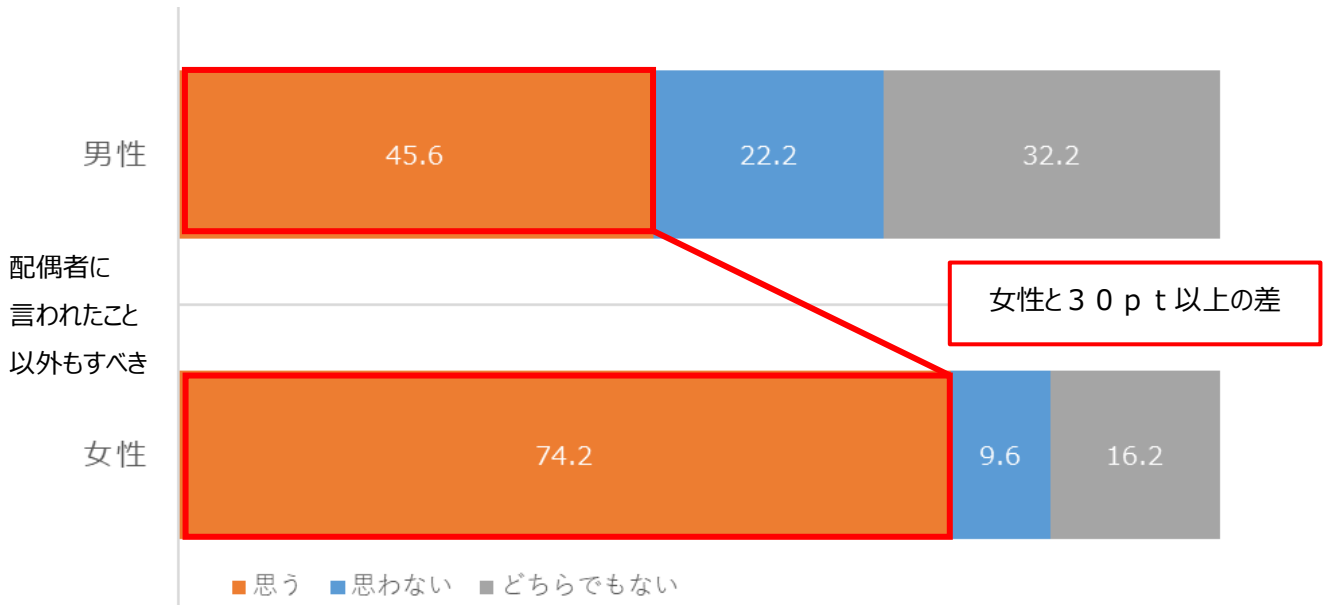
- 男性の子育て参画意識が高まりをみせ、イクメンという言葉が時代遅れになりつつあるなか、男性の6割以上（60.9%）が、子育ては「男女平等にすべきだ」と回答しています
- しかし、子育ては「配偶者に言われたこと以外もすべき」と思うかを聞いたところ、「そう思う」という自発的な意識をもつ男性は45.6%で半数に満たず、女性の74.2%と比較すると意識には約30p tの差があり、子育てへ自発的に取り組む意識には、まだまだ男女ギャップがあります
- さらに、家庭内での子育ての分担について、男性の分担割合を、共働き世帯、専業主婦世帯それぞれでみると、共働き世帯は28.2%、専業主婦世帯は22.2%で、どちらも3割を超えない結果です。また、過去6年間でみても、共働き世帯、専業主婦世帯とも、分担割合は2割台のまま大きな変化はなく、男性の6割が子育ては「男女平等にすべき」というものの、実際の子育ての役割は、妻が働いていても、専業主婦でも女性に大きく偏っています
- この10年で多くの男性が育児への参画意識を持つようになり、女性の社会進出も進んでいる昨今では、男性も育児を「自分事化」する意識へとフェーズチェンジを図る時代がきたのではないのでしょうか

■子育てへの意識について（男女平等にすべきだと思うか）

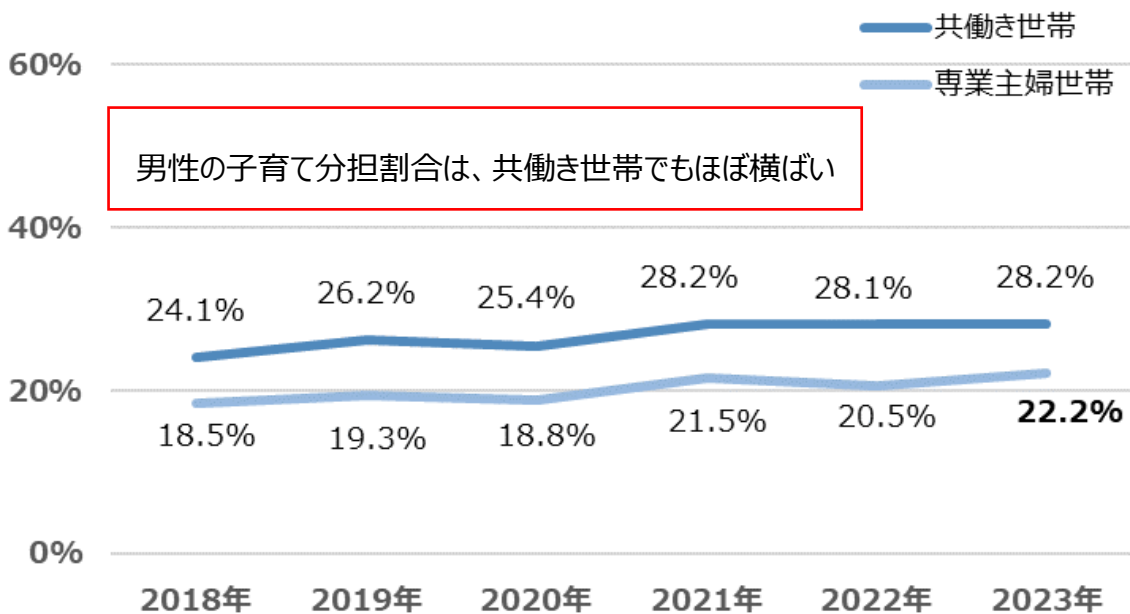


■子育てへの意識について（配偶者に言われたこと以外もすべきと思うか）

※子育てに自発的かどうか



■男性の子育て分担割合の推移



5. ランキング

(1) 子育てに熱心だと思ふ男性有名人

子育てに熱心だと思ふ男性有名人 1位は「つるの剛士」さん
2位「杉浦太陽」さん、3位「はなわ」さんがランクイン

- 子育てに熱心だと思ふ男性有名人は1位「つるの剛士」さん、2位「杉浦太陽」さん、3位「はなわ」さんの結果となりました
- 4位「大久保嘉人」さん、6位「長友佑都」さん、8位「アレックス・ラミレス」さんと、スポーツ選手・元スポーツ選手もランクインしており、子育てでも大活躍している姿が印象的のようです
- 女性の回答をみると、4位には「中尾明慶」さんがランクイン。女優の「仲里依紗」と楽しそうに子育てしている動画などの影響か、特に女性に人気があることが分かります
- また、男性が選ぶトップ10にはスポーツ選手・元スポーツ選手の「大久保嘉人」さん、「長友佑都」さん、「アレックス・ラミレス」さん、「中村憲剛」さんの4名がランクイン。スポーツも育児も一生懸命な姿に共感を得ているのかもしれませんが

■子育てに熱心だと思ふ男性有名人ランキング（敬称略）

全体		
1位	つるの剛士	21.5%
2位	杉浦太陽	18.9%
3位	はなわ	3.9%
4位	大久保嘉人	3.8%
5位	谷原章介	3.5%
6位	長友佑都	3.2%
7位	エハラマサヒロ	2.7%
8位	アレックス・ラミレス	2.6%
9位	賀来賢人	2.5%
9位	小林よしひさ（元体操のお兄さん）	2.5%

男性の回答		
1位	つるの剛士	20.4%
2位	杉浦太陽	12.9%
3位	はなわ	5.8%
4位	大久保嘉人	5.3%
5位	長友佑都	4.2%
6位	アレックス・ラミレス	2.7%
6位	庄司智春	2.7%
8位	賀来賢人	2.5%
8位	谷原章介	2.5%
10位	中村憲剛	2.2%
10位	エハラマサヒロ	2.2%
10位	小林よしひさ（元体操のお兄さん）	2.2%

女性の回答		
1位	杉浦太陽	24.9%
2位	つるの剛士	22.5%
3位	谷原章介	4.5%
4位	中尾明慶	3.6%
5位	エハラマサヒロ	3.3%
6位	小林よしひさ（元体操のお兄さん）	2.9%
7位	アレックス・ラミレス	2.5%
7位	賀来賢人	2.5%
7位	カジサック（キングコング 梶原雄太）	2.5%
10位	大久保嘉人	2.4%

(2) 子どもに習わせたいこと

**「水泳」「英語」「ピアノ」「サッカー」「プログラミング」が不動の人気
「バスケットボール」がランク外から10位にランクイン！**

○子どもにどんなことを習わせたいのか聞いてみました

○ランキングのトップは「水泳」(48.9%)、2位は「英語」(38.3%)、3位は「ピアノ」(26.1%)、4位「サッカー」(16.0%)、5位「プログラミングなどのパソコン教室」(15.1%)の結果で、2年前の調査と比較すると、上位5位までランキングに変動がなく、不動の人気ようです

○変化があったランキングでは、2年前にランク外(12位)だった「バスケットボール」(6.4%)が10位にランクインしており、ワールドカップの開催や、人気アニメの映画化などで、バスケットボールの人气が上昇しているのでしょうか？

■子どもに習わせたいことランキング(敬称略)

※2022年は未実施

2023年			2021年		
1位	水泳	48.9%	1位	水泳	48.7%
2位	英語	38.3%	2位	英語	37.5%
3位	ピアノ	26.1%	3位	ピアノ	26.6%
4位	サッカー	16.0%	4位	サッカー	15.7%
5位	プログラミングなどのパソコン教室	15.1%	5位	プログラミングなどのパソコン教室	13.0%
6位	体操・新体操	12.6%	6位	そろばん	11.5%
7位	そろばん	12.1%	7位	ダンス	10.9%
8位	ダンス	11.3%	8位	野球	9.7%
9位	野球	9.1%	9位	体操・新体操	7.9%
10位	バスケットボール	6.4%	9位	空手	7.9%